

美馬市DX推進計画

令和5年3月

徳島県美馬市

目次

- 1 背景と目的
- 2 計画の位置付けと期間
 - (1) 計画の位置づけ
 - (2) 計画期間
- 3 本市におけるDXの進め方
- 4 DX推進の基本的方針と5つの重点施策
 - (1) DX推進の基本的方針
 - (2) 5つの重点施策
- 5 個別施策
- 6 推進体制

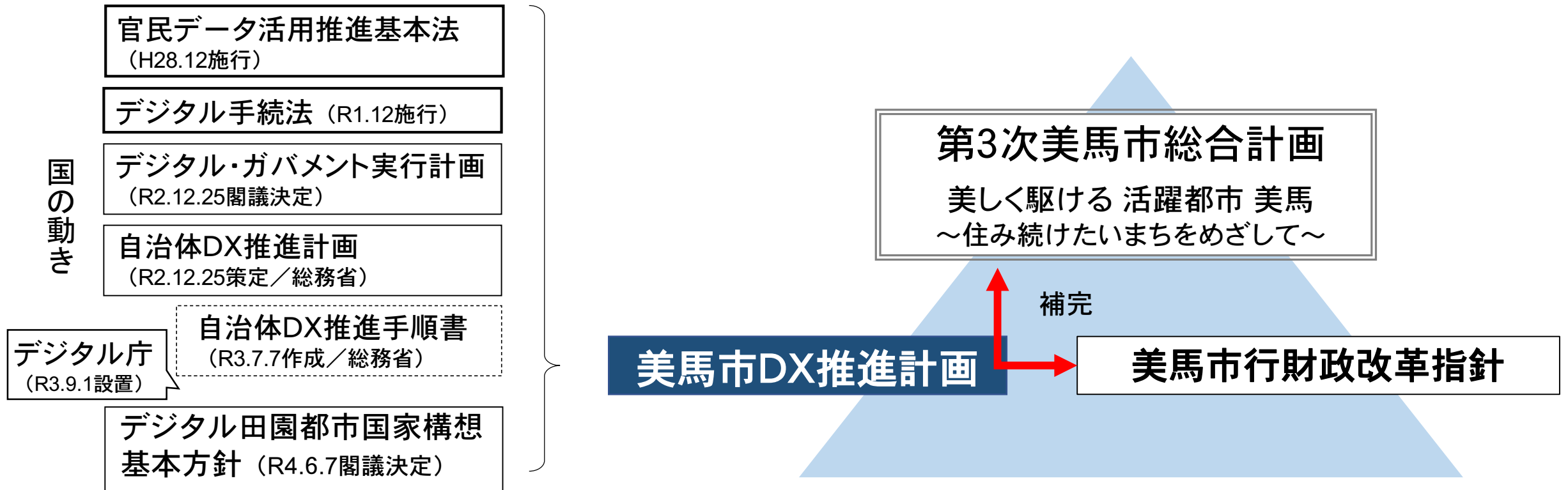
1 背景と目的

- 近年、スマートフォンやタブレット等の情報通信機器の普及に伴い、デジタル技術の活用が急速に進展し、情報通信技術（ICT）は、市民生活や企業活動に欠かせないツールとして大きな役割を担っている。
- 国は、「全国どこでも誰もが便利で快適に暮らせる社会」を目指して、国全体のデジタル化を主導する「デジタル庁」を令和3年9月に設置し、さらに「デジタル田園都市国家構想基本方針」を令和4年6月に閣議決定した。
- その際に重要な概念は、「デジタル化を手段として変革を進めること」（DX：デジタル・トランスフォーメーション）である。単なる新技術の導入ではなく、それに合わせて制度や政策、組織のあり方等を変革していくことが求められている。
- DXとは、「ICTの浸透が人々の生活をあらゆる面でよりよい方向に変化させること」（※）とされている。
※ウメオ大学（スウェーデン）のエリック・ストルターマン教授が2004年（平成16年）に提唱
- そこで、①市民生活の利便性向上を図り、②効率化により生み出した人的・財政的資源を新たな行政課題への対応や市民サービスの向上に充てるとともに、③市が保有するデータを市民と共有することで、市民の市政への参画を促進することをめざして、本市のDXを推進することとし、国の「自治体DX推進計画」に基づく各施策と歩調を合わせ、本市のDX関連施策を着実に推進するため、本計画を策定する。

2 計画の位置づけと期間

(1) 計画の位置づけ

本計画は、「第3次美馬市総合計画に掲げた『将来像』をDXという手段で実現する」という観点で、第3次総合計画を補完するものと位置づける。なお、「美馬市行財政改革指針」（平成28年3月策定）については、本計画と整合的なものとなるよう必要に応じて見直しを行うものとする。



(2) 計画期間

令和5年4月～令和8年3月

(国の「自治体DX推進計画」に終期を合わせる。)

3 本市におけるDXの進め方

本市では、DXを単なる新技術の導入としてではなく、制度や政策、組織のあり方などの変革につなげることを重視する。このため、下図のとおり、**デジタイゼーション→デジタルイゼーション→DX**と3つの段階を経ながらDXを推進する。

DXの進め方<イメージ>

	デジタイゼーション	デジタルイゼーション	DX
内容	ICTツールの活用 [業務の一部をアナログからデジタルへ]	業務プロセス全体のデジタル化 [新たな行動様式]	あらゆる面で市民生活 がよい方向に変化
(例) 窓口 受付	<ul style="list-style-type: none"> 市ホームページの手続きガイドに従ってオンラインによる届出を可能とする（「書かない窓口」の導入） 市役所での在庁時間の短縮 	<ul style="list-style-type: none"> 「書かない窓口」の拡大とマイナンバーカード活用によるオンライン申請への転換 厳格な本人確認により、安全かつ確実に手続きが完結 	<ul style="list-style-type: none"> 必要な市民サービスが、必要な時期に、スマートフォン等へプッシュ型で案内

4 DX推進の基本的方針と5つの重点施策

(1) DX推進の基本的方針

(1) 市民の利便性を向上させる

デジタル使えない人がいるからやらない → ×

(2) 誰も取り残さない、人に優しいデジタル化

全ての市民にDXのメリットを享受いただけるよう取り組む。

(3) 国・県の取組と歩調を合わせ、二重投資を極力避ける

例：基幹業務システムの標準化・共通化

(4) 過度な投資を行わずスモールスタート

美馬市の身の丈に合ったデジタル化を進める。

例) 現役世代を対象とした、件数や手数(てかず)の多い手続きからデジタル化を進め、成果を見ながら徐々に拡大する。

(5) 市役所と市民のデータ共有による価値創造をめざす

令和3年度にリニューアルしたホームページを活用して、オープンデータ化に取り組む。

(2) 5つの重点施策

① マイナンバーカードの普及促進と行政手続きのスマート化

② 庁内情報システムの最適化と市役所におけるDX推進

③ 官民データ活用と地域社会におけるDX推進

④ デジタルデバイドの解消

⑤ デジタル専門人材の活用と育成

5 個別施策 ① マイナンバーカードの普及促進と行政手続きのスマート化

1. 施策名

スマート申請・窓口システムの導入と拡張

2. 施策概要

市の行政手続きについて、来庁（または郵送）により紙媒体で申請する手続きがほとんどである。このため、市民には来庁や郵送の負担が、職員には窓口対応や入力業務等の負担が発生している。これらの負担を軽減するため、「**スマート申請・窓口システム**」を構築し、簡易な行政手続きについてオンラインによる申請が可能となるようシステムを構築する。⇒ 手続きの対象者層や頻度等を考慮し、スモールスタートとする。

3. 数値目標

令和4～6年度の利用 者数 300人（人口の約1%）※交付金申請計画に基づく数値

（単位：千円）

4. 事業費/工程

年 度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
事業費	5,675	3,388	2,288	2,288
一般財源	5,675	3,398	2,288	2,288
うち交付金	2,837	1,496	0	0
工 程	<div style="border: 1px dashed blue; padding: 5px;"> <div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid blue; padding: 5px; margin-right: 10px;">システム構築</div> <div> <p style="text-align: center;">システム稼働</p> <p>（令和5年度はマイナンバーカード利用による公的個人認証機能を追加し、対象手続きを拡充するほか、検診予約やアンケート等、より簡易的な手続きはLoGoフォームを利用）</p> </div> </div> </div>			

5 個別施策 ① マイナンバーカードの普及促進と行政手続きのスマート化

1. 施策名 遠隔相談窓口システムの導入と活用

2. 施策概要

中山間地域の多い本市では、本庁と3つの市民サービスセンターの窓口があるが、複雑化・多様化する市民からの相談等については本庁で対応せざるを得ないものが多い。そこで、本庁と市民サービスセンターをオンラインで相互接続する「**遠隔相談窓口システム**」を構築し、遠隔での相談やリモートでの手続きを行う。⇒「スマート申請・窓口システム」と連携し、市役所に出向かない手続きを拡大する。

3. 数値目標

令和4～6年度の利用回数 4,350回 ※交付金申請計画に基づく数値

(単位：千円)

4. 事業費/工程

年 度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
事業費	10,802	216	216	216
一般財源	10,802	216	216	216
うち交付金	5,401	0	0	0
工 程	システム構築	システム稼働 (相談数に応じてシステムの拡充を検討)		

5 個別施策 ② 庁内情報システムの最適化と市役所におけるDX推進

1. 施策名

基幹業務システムの標準化・共通化対応

2. 施策概要

国の「自治体DX推進計画」における重点取組課題の一つである「**基幹業務システムの標準化・共通化**」に対応し、住民記録や各種税、国民健康保険、介護保険、健康管理、児童手当等といった基幹系業務20手続きを政府と地方自治体が共同利用する共通クラウド基盤「ガバメントクラウド」に移行⇒ 現行システムと国の標準化・共通化仕様書との比較からスタートする。

3. 数値目標

「ガバメントクラウド」を活用した業務システムの移行数（令和8年度に20業務）

（単位：千円）

4. 事業費/工程

年 度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
事業費	0	3,645	比較結果により事業費決定	
一般財源	0	3,645		
うち補助金	0	3,645		
工 程	標準化・共通化仕様書発出		現行システムと仕様書を比較し、ベンダーに提案依頼するなどガバメントクラウドへの移行を準備	

5 個別施策 ② 庁内情報システムの最適化と市役所におけるDX推進

1. 施策名 LoGoチャットの活用

2. 施策概要 LGWANに接続した情報系パソコンとスマホで利用できるビジネスチャットツール「LoGoチャット」を活用し、職員間の情報共有や意思決定の迅速化を図る。⇒ 利用可能な業務、場面（災害発生時の現場対応や選挙時の投票者数集計の連絡等）を提案し、利用者を拡大する。

3. 数値目標 令和7年度末のLoGoチャット利用者数 240人（消防吏員、保育士等を除く。）

(単位：千円)

4. 事業費/工程

年 度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
事業費	0	951	1,109	1,268
一般財源	0	951	1,109	1,268
うち補助金	0	0	0	0
工 程	<div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-right: 10px;"> 試行期間による運用 </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; flex-grow: 1;"> 災害発生時の現場対応や選挙時の投票者数集計等で利用を拡大 </div> </div>			

5 個別施策 ② 庁内情報システムの最適化と市役所におけるDX推進

1. 施策名

AI議事録作成システムの導入と活用

2. 施策概要

議事録の作成が必要な会議において、現状では会議に参加しながらメモを取ったり、ICレコーダーで録音した内容を書き起こすことに手間がかかる等といった事由から、不十分な議事録になる可能性が高い。クラウドを利用した「AI議事録作成システム」を導入し、録音した内容を自動でテキスト化し業務効率化を図る。⇒まずは職員のみで構成される会議から使用し、外部委員から構成される会議へと展開していく。

3. 数値目標

令和7年度末のAI議事録作成会議数 360件

(単位：千円)

4. 事業費/工程

年 度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
事業費	0	1,446	960	960
一般財源	0	1,446	960	960
うち補助金	0	0	0	0
工 程		システム構築と試行運用	対象会議を拡大するとともに会議録アのアーカイブ化等も検討	

5 個別施策 ③ 官民データ活用と地域社会におけるDX推進

1. 施策名 消防団支援アプリの導入と活用

2. 施策概要

消防団員や消防団事務局職員等のスマホとパソコンで利用できる「**消防団支援アプリ**」を導入し、消防団員への現場情報（住所、水利、状況）の速やかな伝達、消防団員が入手した災害状況、現場情報の共有により、消防団の災害対応力を強化する。
⇒消防団行事、団の車両・資機材管理等の共有、出動報告書の自動作成により事務の効率化も図る。

3. 数値目標

令和5年度末の支援アプリ登録団員数696人（美馬市消防団、美馬西部消防組合消防団（美馬町））

（単位：千円）

4. 事業費/工程

年 度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
事業費	0	2,329	2,329	2,329
一般財源	0	2,329	2,329	2,329
うち交付金	0	2,329	0	0
工 程		支援アプリの導入と研修・運用開始	消防団の災害対応力強化 事務処理の効率化	

5 個別施策 ③ 官民データ活用と地域社会におけるDX推進

1. 施策名

避難所備蓄資機材等のデータベース化

2. 施策概要

避難所に備蓄している資器材等の情報を「データベース化」し、ホームページに公開する。⇒ 平時の活用だけでなく、被災時に活用できるよう、開設状況や避難者数の情報等も公開を検討。LoGoチャットからの情報取り込み等、手間のかからない手法で可視化できるシステムの導入も検討する。

3. 数値目標

令和7年度末のデータダウンロード数 300回

4. 事業費/工程

(単位：千円)

年 度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
事業費	0	0	システム導入検討結果に応じて事業費決定	
一般財源	0	0		
うち交付金	0	0		
工 程	備蓄資器材の情報をホームページで公開		避難所開設や避難者情報等のリアルタイムでの可視化も検討	

5 個別施策 ③ 官民データ活用と地域社会におけるDX推進

1. 施策名

デジタル地域通貨「MIMACA」の活用

2. 施策概要

市独自のデジタル地域通貨「MIMACA」による地域経済の好循環を創出する。マイナンバーカード取得者へのポイント付与を起点とし、「MIMACA」の利用拡大を図るため、ボランティア活動等の望ましい行動を促すための動機付けとなるような行政ポイントの付与も行う。

3. 数値目標

令和6年度末の利用可能店舗数 300店舗（市内小売店舗数370件の約80%） ※交付金申請計画に基づく数値

（単位：千円）

4. 事業費/工程

年 度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
事業費	39,800	17,112	14,362	14,362
一般財源	39,800	17,112	14,362	14,362
うち交付金	35,100	0	0	0
工 程				

5 個別施策 ③ 官民データ活用と地域社会におけるDX推進

1. 施策名 高齢者見守りサービスの拡充

2. 施策概要

人感センサーによる高齢者の見守りは、コールセンターで異常を感知し近隣の協力員へ電話連絡で現地に駆けつけるというもので、協力員の確保が課題となっている。サーバをクラウド化し、インターネット経由で家族がセンサーの情報をいつでも閲覧できる「**高齢者見守りサービス**」により、協力員不足に対応する。

3. 数値目標

令和6年度末の利用者数 240人 ※交付金申請計画に基づく数値

(単位：千円)

4. 事業費/工程

年 度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
事業費	14,610	6,101	6,101	6,101
一般財源	14,610	6,101	6,101	6,101
うち交付金	7,305	0	0	0
工 程	<div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-right: 10px;">システム構築</div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 10px; flex-grow: 1;"> <p style="text-align: center;">システム稼働</p> <p style="text-align: center;">(今後、徘徊情報を市や社会福祉協議会当へメールで自動配信するサービスなどの導入も検討)</p> </div> </div>			

5 個別施策 ③ 官民データ活用と地域社会におけるDX推進

1. 施策名 美馬アグリワーケーション施設の運営

2. 施策概要 IoTを活用する水耕栽培機器を備え、スマート農業を体験できる「美馬アグリワーケーション施設」を整備する。そこで、今後蓄積されるデータを活用することで、スマート農業に取り組む新規就農者（起業者）の支援、更に地域の耕作放棄地や休耕地の活用及び特産品の開発につなげる。

3. 数値目標 令和7年度末の新規就農者数15人

4. 事業費/工程

(単位：千円)

年 度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
事業費	54,072	4,772	4,772	4,772
一般財源	54,072	4,772	4,772	4,772
うち交付金	20,385	0	0	0
工 程	<div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-right: 10px;"> 施設整備 運用開始 </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ○美馬アグリワーケーション施設（令和5年3月末完成） ○令和5年4月から指定管理者により運用開始 ※栽培エリアに隣接する「ワークスペース」は9月運用開始予定 </div> </div>			

5 個別施策 ③官民データ活用と地域社会におけるDX推進

1. 施策名

GIGAスクール構想の推進

2. 施策概要

「**GIGAスクール構想**」において整備された1人1台端末の効果的・効率的な活用に向け、クラウド型学習教材やオンラインでの学習支援ソフトを活用する。またネットワーク関係機器等の年度更新を行うことにより、学習指導要領に示された「資質・能力の3つの柱（※注①）」の育成に向け、教材・教具や学習ツールの1つとしてICTを積極的に活用する環境整備に取り組む。

（※注①）小学校では令和2年度、中学校では令和3年度から全面実施された新しい「学習指導要領」において、以下の3つの柱からなる「資質・能力」を総合的にバランス良く育てていくことを目指している。

（ア）実際の社会や生活で生きて働く「知識及び技能」

（イ）未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」

（ウ）学んだことを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力、人間性等」

3. 数値目標

令和7年度末において、中学校におけるクラウド型学習教材の月次アクティブ率（※注②）平均70%（8月の休業期間を除く。）

なお、小学校については、機器に慣れ親しむ期間として位置づける。

（※注②）月次アクティブ率とは、生徒がクラウド型学習教材を1か月でどの程度実際に利用しているのかという割合を測る指標のこと。

4. 事業費/工程

（単位：千円）

年 度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
事業費	111,543	103,593	140,156	112,212
一般財源	111,543	103,593	140,156	112,212
うち交付金	0	0	0	0
工 程	<div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-right: 10px; text-align: center;">運 用 更 新</div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 10px; flex-grow: 1;"> 小学校・中学校における各教室用等のパソコンのほか、タブレットの安定した利用環境の整備を行う。 </div> </div>			

5 個別施策 ④ デジタルデバイドの解消

1. 施策名 **スマホ教室の開催**

2. 施策概要 国が提供するeラーニング受講後に、公共施設を活用した市主催による「**スマホ教室**」を開催し、デジタルデバイド解消の一助とする。⇒ スマホの電源の入れ方や電話のかけ方から始め、SNSの活用等といったカリキュラムも盛り込む。

3. 数値目標 令和5～7年度のスマホ教室参加者数 合計200人

(単位：千円)

4. 事業費/工程

年 度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
事業費	0	1,307	1,307	1,307
一般財源	0	1,307	1,307	1,307
うち補助金	0	0	0	0
工 程	e-とくしま推進財団によるスマホ教室開催	市主催の「スマホ教室」の開催		

5 個別施策 ⑤ デジタル専門人材の活用と育成

1. 施策名 DX推進アドバイザーによるDX課題解消に向けた支援

2. 施策概要 地域のDXに取り組む市町村を人材面から支援する国のデジタル専門人材派遣受入制度を活用し、「DX推進アドバイザー」2人を外部から招聘⇒職員研修やアンケート等を実施し、課題の掘り起こしと解決に向けた助言を行う。

3. 数値目標 令和7年度末のDX化により課題解消された業務数（10業務）

（単位：千円）

4. 事業費/工程

年 度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
事業費	3,791	4,247	3,791	3,791
一般財源	3,791	4,247	3,791	3,791
うち交付税	2,111	2,567	2,111	2,111
工 程	基本研修 (集合研修) の開催	DX人材育成に向けた個別研修を開催するとともに、 施策実現に向けた助言等を行う		

5 個別施策 ⑤ デジタル専門人材の活用と育成

1. 施策名 DX推進リーダーの育成

2. 施策概要 各課内における課題を掘り起こし、データ活用等に基づいた業務改善や企画立案に取り組む「DX推進リーダー」を育成⇒DX推進アドバイザーを講師とする個別研修やeラーニング等を受講し、一般行政事務を所管する各課に1名ずつの配置をめざす。

3. 数値目標 令和7年度末までに一般行政事務各課（33課）に1名ずつDX推進リーダーを配置

(単位：千円)

4. 事業費/工程

年 度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
事業費	0	0	必要に応じて研修を追加	
一般財源	0	0		
うち交付税	0	0		
工 程	DXアドバイザージャによる基本研修を受講	DXアドバイザージャによる個別研修を受講	DX推進リーダーを各課に配置	

6 推進体制

市長を本部長として令和4年4月に設置した「**美馬市デジタル・トランスフォーメーション（DX）推進本部**」において、本市における全庁的なDX推進のロードマップである本計画に基づく施策の進捗管理と評価を行い、DX推進の司令塔としての役割を果たす。

「推進本部」は、市長、副市長、教育長及び部長級職員をもって構成し、副市長及び教育長を副本部長、部長級職員を本部員で構成する。なお、企画総務部を所管する副市長については、「**最高情報統括責任者（CIO）**」及び「**最高情報セキュリティ責任者（CISO）**」とする。（cf.美馬市セキュリティポリシー）

また、外部人材（2名）である「**DX推進アドバイザー**」（特別職非常勤）は**CIOを補佐**するとともに、その専門的知見や実務経験を生かして、職員に対する技術的助言や人材の育成を担う。

「美馬市DX推進本部」の事務局は、デジタルトランスフォーメーション推進課が担う。

6 推進体制

美馬市デジタル・トランスフォーメーション推進本部

